

論文の和文要旨

論文題目	シエラレオネにおけるリベラルな紛争後の平和構築への挑戦 アフリカにおけるリベラルな平和構築の実現性の事例研究
氏名	Emmanuel Vincent Nelson Kallon エマニュエル・ヴィンセント・ネルソン・カローン

なぜ紛争後のリベラルな平和構築は、シエラレオネで成功しないのか?これが本論文で扱う主な問題である。本論文は、リベラルな平和構築モデルを達成することの困難は、社会の政治構造による、と論じる。本論文は、紛争後シエラレオネの政治構造を特徴づけてきた「民族・地域的な新家産主義」の実践が、民族的多元主義・経済発展・社会平等の三領域において、観察されることを論じる。

本論文では、シエラレオネにおける紛争後の平和構築を検討するために、「民族・地域的な新家産主義」の概念を導入する。本論文が論じるのは、アイデンティティ(民族的・地域的)が過剰に存在しているシエラレオネにおいて、紛争後のリベラルな平和構築を実施することは難しいということである。この点を踏まえたうえで、特にシエラレオネのような特異な紛争後の社会において紛争後のリベラルな平和構築を実現するためには、政治空間における民族的多元主義、経済的不平等に対応した経済発展、疎外を超えた機会均等などが基本的な条件となると論じる。

本論文は、民族的構成の中で多元主義の分裂が起こったと論じる。さらに深く存在する経済の未発展が不平等や、若者層の機会の不均等を作り出していると論じる。この社会状況が、シエラレオネにおける紛争後平和構築の成功を困難にしているのである。本論文は、その原因が「民族・地域的な新家産主義」に根差していると結論づける。